

～平成28年度事業～

- 4月 唐崎わんど観察会（23日）
こいのぼりフェスタ1000（29日）
- 5月 アユの溯上調査 5月15日～7月15日まで
- 6月 あくあぴあふれあいフェスタ（4日）
水道祭（5日）
- 7月 定期総会（2日）
お父さんのための魚とり講座（23日）
- 10月 アユの産卵場整備（22日）
- 12月 ミズヒマワリ駆除大作戦（3日）
- 3月 第12回芥川クリーンアップ大作戦

年間を通じて、子どもから大人まで楽しむことのできる様々なイベントを開催しています。イベントに参加し自然を体感できる良い機会がたくさんあります。
是非、ご参加ください！！

◇◇ 芥川俱楽部 定例活動のおしらせ ◇◇

あくあぴあ芥川前での澤筋づくり、竹林の整備など、子どもから大人まで、どなたでも参加することができます。お気軽にご参加ください。

- ▶ 時間：毎月第3土曜日 午前10時～12時
▶ 集合場所：あくあぴあ芥川 1階 水上ステージ前

時間または集合場所が変更になる場合がありますので、あくあぴあ芥川（072-692-5041）へご確認ください。

～お父さんのための魚とり講座～

平成28年7月23日（土）午前10時～（雨天中止）

あくあぴあ芥川とネットワークの共催でお父さんのための魚とり講座を実施します。

この講座は、夏休みの始まりに、魚の上手なとり方を子どもには内緒でこっそり伝授し、お父さんたちを子どもたちのヒーローにするためのものです。

まず、お父さんたちには、芥川で魚のとり方の講習と実習を行います。その間に子どもたちは、館内の水槽で実際の魚を見ながら芥川にいる魚の勉強をします。子どもたちと合流してからは、いよいよお父さんたちの腕の見せ所です。川に入って子どもたちに魚のとり方を伝授します。今年は何種類の魚をとることができるか楽しみですね。



- ▶ 集合場所：あくあぴあ芥川（1階水上ステージ前）
▶ 講師：花崎 勝司（あくあぴあ芥川主任研究員）
：福田 真司（芥川俱楽部）
▶ 申し込み連絡先はあくあぴあ芥川（072-692-5041）まで
▶ 持ち物：水筒、濡れても良い服、靴
▶ 雨天中止の判断は、当日、午前7時に行います。
情報は『芥川俱楽部ブログ』
<http://akutariv.blog85.fc2.com/>に掲載します。

アユの溯上調査実施中！

5月末現在、3,781匹が遡上！！

芥川大橋上流の魚みちでの遡上調査も今年で5回目です。5月15日から学生の皆様をはじめ関係機関の方々に協力を呼びかけ、ボランティアによる目視調査をしています。

現在、例年よりペースが早くどれだけのアユが遡上するか期待されるところです。

現在も参加者を募集しておりますので皆様のご参加をお待ちしております。

- ▶ 調査期間：～7月15日まで実施中！！
9:00～15:00
▶ 調査場所：芥川大橋上流の堰の魚みち
(高槻市芝生町2丁目地先)
▶ 調査方法：ボランティア調査員2名で魚みちを通過する魚を目視でカウント
▶ 応募条件：ボランティア保険に加入
(費用：主催者負担)
▶ 問合せ：茨木土木事務所 地域支援・企画課
(TEL:072-627-1121)

芥川俱楽部では、川づくりや各種イベントと一緒に参加してくれる方を募集しています。

イベント等の情報は芥川俱楽部ブログで、紹介していますので、ぜひご覧ください。

ブログ：<http://akutariv.blog85.fc2.com/> HP：<http://akutagawaclub.web.fc2.com/>

e-mail：akutagawa0726@yahoo.co.jp

あなたと自然が触れ合える芥川の情報誌

芥川水辺だより



Vol.25
2016年
夏号



～わんど観察会～

今年も唐崎わんどの生きもの観察を国土交通省淀川河川事務所の協力のもとに行いました。「わんど」については河川環境課の上野専門官から資料に基づき解説がありました。また、参加者で採った魚や貝類については、あくあぴあ芥川の花崎主任研究員から詳しい解説がありました。

採取できた魚はドジョウ、カダヤシ、タウナギ、ブルーギルと種類も数もさびしいものでした。それに比べて、貝類はヒメタニシ、イシガイをはじめ、数は多くないもののドブガイ、ササノハガイ、シジミの仲間やカワニナの仲間、サカマキガイも採取できました。

魚は、本流の水量が増えた時にわんどへ入って来るため、水につかる頻度が少ないと魚も少なくなります。唐崎わんど群は出来てからまだ日が浅いことや、また、魚がいたわんどにカワウが数羽で来てあつという間に食べていったという情報もあることから、それもわんどに魚が少ない原因のひとつかもしれません。

トンボのヤゴでは、シオカラトンボ、ヨツボシトンボ、ショウジョウトンボ、ギンヤンマ、イトトンボ2種などが採れ、ワンドはトンボの発生地のひとつでもあることを再認識させてくれました。参加者は46名。市内宮田町から自転車で参加された親子は「とても楽しかった！でも、ちょっと遠かったあ～。でも、来年も来たいなあ」と言い残して帰って行きました。



～里山保全とシカについて～

最近、兵庫県や北摂の山ではシカが増えてきて、里山での畠や森林におけるシカの食害の話を聞く機会が増えてきました。とりわけ、高槻では本山寺の府の指定保護林内でのシカの増加とその影響が問題となっています。芥川倶楽部としても、山が荒れると川も荒れるといった生態系保全の観点からも考えようということで、小柿正武さん(森のプラットフォーム高槻)、幸田良介さん(大阪府立環境農林水産総合研究所)、常俊容子さん(本山寺自然環境保全地域を考える協議会)の3名の講師に話を聞きました。以下その概要です。

◆大阪府域のシカの現状と増加の要因

府域のシカは、北摂(能勢、箕面、高槻など)を主な生息地とし、総数は4300～6500頭になります。最近は狩猟者のシカ目撃割合が平成24年以降ほとんど変化せず、平成26年は減少していく增加抑制の可能性もあるようです。シカの増加はこれまでの里山林と人間、野生動物との関係が変化してきたことが原因です。森林はもともと薪炭や建築材としての需要に支えられ、なりわいとして守られてきましたが、燃料革命によって薪、炭が売れなくなり、外材輸入による木材価格の低迷や建築方法の変化により木材需要が減少しました。山林所有者は売っても赤字になる森林の手入れをせず、山に人が入らなくなりました。

これらの要因によって、人と野生動物の領域が曖昧になりシカが増えたそうです。また、動物愛護の観点から少なかったシカをむしろ増やそうとしたこともあったようです。

◆シカは生態系エンジニア

シカが過密になると植生が食いつぶされ減少するだけでなく、好きな植物は食べられて減り、嫌いな植物は食べられず増えます。アオキは好きだけどシャガは嫌い? 森の植物の量だけでなく質も変動します。森の中の植物量が減ると、藪を好む鳥が減少し、木々の間に巣をつくる造綱性のクモが減少します。植生の変化で増加するミミズをエサとするタヌキが増加します。シカは生態系に大きな影響を与えることから生態系エンジニアと呼ばれる所以です。

◆生態系への影響の観点からどのような目標設定が必要か?

農林業被害問題は被害額の減少など目標を設定しやすく予算も一定確保できますが、生態系への影響についてはそれが難しいところです。生物多様性が最も高い状態が理想なのか、森林が森林として維持される(天然更新)状態が理想なのか、可逆的な変化は許容しつつ不可逆的な変化(レジームシフト)が生じないよう注意すべきなのか、結論づけることは難しいようです。シカの「生態系エンジニア」としての役割を考えると、より良い共存関係を目指すべきだが、どのような目標を設定するのか、まだまだ議論が必要なようです。

～第11回淀川・芥川クリーンアップ大作戦～

平成17年度から数えて11回目となりました。昨年までは「アユが遡上する前に芥川をきれいにしよう」と実施してきたイベントでしたが、今年は淀川管内河川レンジャーと共に淀川の大塚地区、三島江地区を加えた8地域で、名前も淀川・芥川クリーンアップ大作戦とスケールアップして実施しました。

天気は晴れ、気温は例年に比べると少し低かったですが、市民や市民団体、大阪府、高槻市などから約370人の人が参加しました。

受付、注意事項の説明のあと河川敷、道路など色々な場所でゴミを回収しました。



心配された雨も夜に止み、当日は良い天気に恵まれました。

今年も「芥川の魚たち」の水槽は、子どもたちや若い人達、川で遊んだ経験のある人達にも大人気でした。質問に答えていると、芥川にたくさん生き物が棲んでいることや水がきれいなことを知らない市民がまだまだ多いのを実感します。

茨木土木事務所のコーナーでは、地震で倒れる模型に驚きの声が上がり、クイズと缶バッヂ作成には長い列ができました。



～あくあぴあふれあいフェスタ&水道祭～

「あくあぴあふれあいフェスタ」は、あくあぴあ芥川で毎年市内で活動している団体が一堂に会し、それぞれの活動を紹介するイベントです。

芥川倶楽部は「魚釣りゲーム」を出展しました。当日は200名を越える子どもたちで大盛況。子どもたちは手作りの竿を手に大はしゃぎです。慣れるまではなかなか難しいものの、マグネットで紙の魚を釣り上げるとみんな満足そうで、釣った魚の数を競い合っていました。

また、「水道祭」は水の大切さを再認識し、水道への理解を深めるためのイベントで、水に関わる団体が参加しています。

今年の目玉は、「とびだせ! あくあぴあ号」での「出張博物館」。軽トラの荷台に水槽を積み上げ、即席の出張博物館を作ります。水槽の魚はみんな芥川に棲んでいる魚たちです。当日は朝からあいにくの天気でしたが、水槽の前では子どもも大人も、普段あまり見られない魚の展示に興味を示していました。多くの人が生きた魚にふれあえるよう、「とびだせ! あくあぴあ号」はこれからもいろいろなイベントに出張します。



特にゴミが多いのは、橋の周辺や道路沿いで、一部の人のマナーの悪さが原因と思われます。また、自転車や自動車のタイヤなど、不法投棄?と疑うものも見つかりました。

～今後の川づくりについて～

◆現状と課題

芥川ではこの10年で、芥川大橋下流の落差に魚みちが出来たことや芥川倶楽部で取り組んでいるミズヒマワリ除去、クリーンアップ大作戦などを通じて、アユを中心とする多様な魚が生息できる環境になりました。

しかし、魚みちは桜堤公園のある門前橋までしか繋がっておらず、夏場の水温の高さと水量不足から、アユをはじめ水生生物が育つ環境はまだまだ良いとはいえません。

◆今後について

芥川倶楽部では、今後の川づくりについて、学識経験者で構成される芥川倶楽部アドバイザーの意見を聞きながら、今後の門前橋上流の魚みちの整備や水生生物の生息環境について議論を進めるとともに、芥川倶楽部の活動を通して、川に親しむ子どもたちと市民を増やす取り組みを市民団体、行政と協働して行っています。

